

特性のある子が地域でその子らしく育っていくために ～「あれ？うちの子なんだか心配」

気づきから相談につながるまで～

日 時：令和7年7月2日（水）10時～12時

場 所：仁保地域交流センター

講 師：大草 香代 氏（子ども発達支援センター愛 施設長）

受講生：大人 31人

特性があるかもしれない自分の子どもに対して不安を抱く親御さんに、適切にSOSを出して相談してもよいことを伝えていただきました。また家庭での子どもとの関わり方についても、講師の施設での関わり方を参考に学ばせていただきました



子ども発達支援センター愛の紹介

- ・児童発達支援センター（福祉施設）
- ・通所部門のほか、相談、地域支援事業部門あり。
- ・生活をしていくうえで様々なつまづきがあるお子さんと保護者を対象としている。
- ・診断はついていないが発達が気になるお子さんや、障がいの診断がついているお子さん、肢体不自由児のお子さんなどが通っている。



障がいについて

- 1.身体障がい・・先天的、もしくは後天的な利用で身体の機能の一部が不自由な状態
- 2.知的障がい・・発達期に生じた知的機能の障がいにより、認知能力（理解・判断・思考・記憶・知覚）が同年齢の子どもに比べて明らかに停滞している状態のこと
- 3.精神障がい・・統合失調症・うつ病・パニック障害など「精神疾患」を有する。

「発達障がい」も含まれる。

発達障がい

話すこと、物事や意味を理解すること、または身体を動かすことなど、成長するにつれてできることや理解することが増えるが、それを獲得することが十分にできない脳の器質的（生まれ持った）機能的（働きの悪く様々な症状）な障がい決して本人のわがままや親の育て方、環境が原因ではない

「子ども発達支援センター愛」ではどんなことをしているのでしょうか



子どもの発達支援 療育

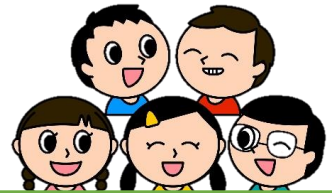
どんな子どもの発達にもでこぼこがあり、特性のある子はそのでこぼこの差が大きく、でこぼこが大きいことで生きづらさを抱えることが多い。その不得意なところを支援して、その子が生活しやすいようにサポートしていくのが療育です。

POINT



得意なことを引き出しそれを増やす。好きなことを増やす。不得意なことは支える。**遊びや得意なことを通して、発達を促す**

子どもの肯定的な感情を育む



その子に合った理解を助ける支援

・・・例：絵カードを使った会話（やることをカードで表し伝える。目から入る刺激）

「どうしてできないの？」ではなく「できた事を認めて次に進む」これを繰り返す



人として生きていくための“宝物”を増やしていく

気づきから療育につながるまで

保護者の気づき

「うちの子、他の子と少し違うかも」

- 他の家族や親族からそんなことはないと言われる
- 相談できない雰囲気になる
- 相談すること自体に気づかない、相談を思いつかない
- 相談にはエネルギーがいる勇気がいる

もしかしたら・・・

ことばの発達が遅い
落ち着きがない
かんしゃくがひどい
こだわりが強い
音や感触が過敏
保育園や幼稚園の先生からの気づき など

本人

定型発達の子と一緒にいることが辛くなる
困り感

その子の幸せのために一人で悩まずに相談してみませんか？
一緒に考えましょう！



地域でその子らしく育つために

保護者・専門機関・関係機関と連携してみんなで支えます

個人に合わせた支援計画を立てます（保護者の思いも入れて）。
家庭訪問・個人懇談などもあるので、気になることは遠慮なく相談してください。
保護者同士の交流の場や勉強会もあります。
地域の子ども達との交流の場もあります。地域全体で子どもを育てましょう。

ペアレント・メンター 紹介

自閉症など発達障がいのある子どもさんを育てておられる先輩保護者。
山口県実施の研修を受けて、ペアレント・メンター認定を受けた方です。特性を持つ子どもさんを育ててきた経験、知識や地域の情報を活かして、相談相手になり、地域の機関とのつなぎ役として活躍されています。

子ども発達支援センター愛では保護者の方からの相談に応じてペアレント・メンターの紹介、相談の場を設けています。

相談例：就学に向けて心配・放課後デイサービスの利用について・青年期から成人期に向けて・療育と就労についての不安 等

子どもの状態に合わせた家庭での過ごし方

○子どもの特性を理解する

・・・困り感は何だろう

○スモールステップで！

時間をかけて 繰り返し 無理に進めない 得意なこと好きなことから
1人ひとりのお子様のスピードに合わせて分かりやすく

・・・絵カード 実物（視覚から入る）を利用した対話

○できた！を大切にしよう

できないことに注目しがちだが、できたことが大事

※ただし危険なときにはすぐに止める



ふわふわことば 使おう

→ 言われるとうれしいことば

しょうずだね いいよ まってるよ てつだおうか
がんばってね ごめんね ありがとう どういたしまして など

おわりに講師より

保護者のみなさん、
どうぞ前をむいて。
子どもの人生は、ずっと続きます。
その子らしく地域で生き生きと幸せに過ごせるように
保護者や関係機関、地域の方々の力を借りて
みんなで育てましょう。
大きくなったときに幸せでいられるよう。



お子様の安心できる居場所で
安心できる人と
こまめに連絡を取りながら、
うまくいった方法を共有しましょう。

【参加者の感想】(一部紹介)

- 子どもがよくイライラしたりかんしゃくをおこしたりする。本来の性格か？発達の問題か、悩むところもある。今日のお話を聞いて、スモールステップや結果を急がない見守りも大切だと感じた。仕事をしていると余裕がない子育てになりがちだが、もっと子どもの心に寄り添っていかれたらと思う。
- 3才の息子が言葉の遅れ、多動があり、療育に通っている。幼稚園と並行してみたい。今回改めて考える機会があった。家庭での関わり方ももう一度振り返ってみたい。
- ペアレントメンターさんのことを知れてよかった。就学しているのでこれからの支援についてもっと相談できる場所を知りたい。ぜひ、就学後を対象にしたものもお願いします。
- 講師の大草先生の実体験に基づくお話に自分の子どもと重なって涙が出た。気づいた時に子どもに寄り添い、周囲と支えることが大切だと深く思った。現在療育に通っている子どもがいて、家族をはじめ周囲の人に協力をしてもらっているの、この環境に感謝して、これからも子どもを支援していこうと思う。発達障がいなど改めて勉強できてよかった。